

会津平坦地におけるコシヒカリ疎植栽培は 育苗資材コストを半減できる

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

水稲—水稲—作型栽培型

2 担当者

高橋元紀・鈴木忠弘・川島寛・新妻敏和・山内敏美

3 要旨

会津平坦地におけるコシヒカリの疎植栽培は標準栽培と比べ、収量と品質に差はない。

また、育苗コストは標準栽培に比べ半減できる。

(1) 幼穂形成始期において、標準栽培より茎数は少ないが、草丈は長く、葉色は濃くなる。出穂期、成熟期ともに1日程度遅れる。また、穂数は少なくなるが一穂粒数が多いため、 m^2 当たり粒数は変わらず、収量は同等である(表1)。

(2) 疎植栽培の育苗資材コストは、標準栽培に比べて10aあたり7,000円程度削減できる(表2)。

表1 栽植密度と生育(2011~2014年 会津地域研究所 品種コシヒカリ)

栽植様式	幼穂形成始期			出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂数 (本/ m^2)	精玄米重 (kg/a)	粒数		品質
	草丈 (cm)	茎数 (本/ m^2)	葉色 (SPAD502)					1穂 (粒/穂)	m^2 当たり ($\times 100$ 粒/ m^2)	
疎植	75.1	497	34.3	8/11	9/22	357	61.9	84.3	301	2.8
標準	72.6	651	30.4	8/10	9/21	416	63.3	71.9	300	2.8

※データは4ヶ年の共通区(稚苗、同じ栽植密度、基肥窒素量0.3kg/a、追肥なし)を平均

※栽植様式: 疎植は株間 \times 畦間 30cm \times 30cm、標準は30cm \times 16cm

※精玄米重、品質は1.8mm以上。

※品質は会津地区農産物検査協議会(JA会津みどり)による1(上上)~9(下下)、10(規格外)の10段階評価。

表2 10aあたりの育苗資材コストの比較

栽植様式	箱数 (箱)	苗購入費 (円)	農薬費 (円)	支出差 (円)
疎植	10.0	6,480	1,490	-7,013
標準	18.8	12,182	2,801	-

※1箱あたり648円(平成26年度会津みどり農業協同組合農業機械銀行)で算出。

※1箱あたり149円(チアトキサム・ヒロキロン粒剤)で算出。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成23年度~26年度

(2) 研究課題名 会津地域における低コスト・高品質米のための栽培管理技術の確立
(会津地域における疎植栽培法の確立)

(3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

(1) 平成24年度 参考となる成果「会津平坦部におけるコシヒカリ(疎植栽培)の生育目標値」

(2) 平成25年度 参考となる成果「水稲疎植栽培の刈り取り時期は標準栽培と変わらない」